



2013~2014

沼田ロータリークラブ会報

ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を
Engage Rotary, Change Lives

2013~2014年度 国際ロータリー会長 ロンD・パートン

例会日…毎週火曜日 12:30 会長 保坂充勇 幹事 斎藤正典 会報編集 戸部聖之
例会場及事務所 沼田市東原新町1540 利根郡信用金庫本店内 TEL 0278-24-1177

第2768回 例会報告

2013年11月15日

記録 戸部聖之

例会予告

11/26 「足の健康名人生を」 高橋毅先生

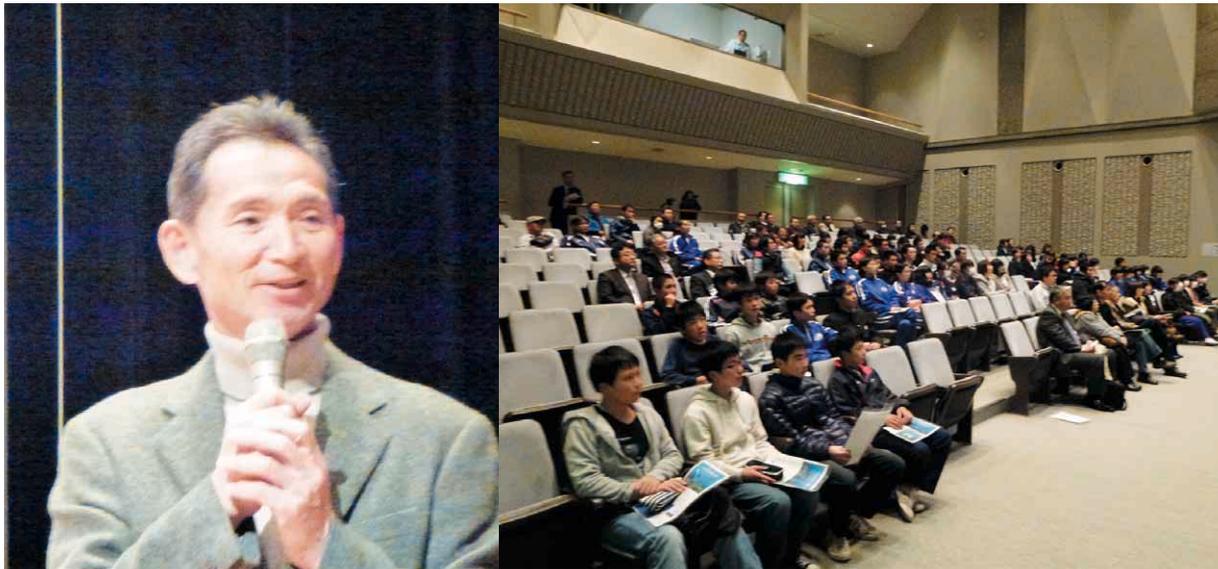
12/3 総会

<http://www.rid2840.jp/numata/>

2013年11月26日発行 No.20

イルカに学ぶ癒しの心

海と人と心を結ぶ潜水士 渋谷 正 信 先生



■司 会 宮内明彦社会奉仕委員長

■来賓 名誉会員川場村長 関 清様

■会長挨拶 保坂充勇会長

本日は多くのご来場いただきありがとうございます。講演会は地域貢献のため開催いたしました。現代社会では大人も子供も様々な悩みを抱え、不安の中で生きています。

渋谷先生は生き様の中から、自分達の生き方、子供達の生き方にヒントを得られるよう体験を通じてのお話をさせていただけると思います。何か感じられる時間となれば主催者として大変ありがたいと思います。

■講 演

潜水士をして42年になります。私を育ててくれたのは海で、海に感謝をしています。海に生きるもの全てが住みやすい環境を望み、人間と他の生命が調和できるように願いを込めてお話しさせていただき、皆様方と調

和した時を過ごしたいと思います。

「イルカに学ぶ癒しの心」というタイトルですが、野生のイルカと泳ぎたいと思ったのは、仕事に悩んでいる時に、以前イルカと泳ぐと癒されると耳にしていたので、泳いでみたくなり世界中の生息地に行き泳ぎました。最初はうまくいかず、癒されるまではなりませんでしたが、こつを掴み友達になれるようになりました。

仕事は水中工事や調査、ダイビング指導で国内外どこでも仕事に行きます。海の中で工事等の仕事と自然環境の調和、生き物と仲良くしたい気持ち、周りの人との調和を目指して生きています。

海の工事は海を壊す事と気付き、それから何を始めたか、何を目指したかを4万弱の潜水時間で得た事をお話しします。

潜水学校で技術を学び、より優れたどんな状況でも海中で工事ができるようになりたいと努力して、海洋開発で引っぱりだこになり

日本だけでなく世界からもオファーを受けるまでになりました。水中爆破の名人といわれ岩をみただけで手順がわかるまでになりましたが、違う視点から見るとそれは磯の破壊者で、今までの努力は環境を破壊して事に気付き、何をしていたのかつらい思いになりました。2～3年は悩み続けましたが、湾岸戦争で油まみれの海をテレビで見た時、海が自分を呼んでいるように思えなんとしても行かなくてはと行動しました。戦争している国に行くなんて正気ではなく、外務省でも相手にされなかったけどなんとか行きました。

更に、ボルネオの亜熱帯雨林での伐採を阻止するグループが木に自分達をチェーンでしぼり、切らせないようにしているビデオを見て衝撃を感じました。

環境を守るために命をかける人が世界にいるのを見て、自分でもできる事があるはずと目覚めさせられました。自分の仕事を見直すと、工事した所に魚が群をなしていたりする事もあり、仕事のやり方で魚の生息環境によいこともあると思い調査し、その結果を発表しました。多くの方から良い反響があり、大学や役所等からも問い合わせがありました。一時的には破壊にはなりますが、魚の住み良い環境はどういう所か自分なりに理解できたと思います。

魚には産卵の場と稚魚が育つ場が必要で、魚を採る事を漁業と考えてその場だけを追求してきました。藻場や干潟が大事で日本は沿岸を埋めてしまい、やっと生態系で重要な所と気付きました。海藻が繁る藻場には卵が付き、稚魚が生きる場となり、海の森といっています。日本中を調査しましたが、磯焼けという藻が少なくなっている状況が多くなっておりました。海藻がないとウニやあわびも採れなくなり、温暖化で海水温が上がり高知では珊瑚が生息していたり、亜熱帯魚が海藻を食べ尽くす等の影響もあり磯焼けを増す原因にもなっています。海の森には山の森が大事な要素で山の養分が川から海に流れてきて、海藻を育てるのです。森林は大きくなるのに時間がかかりますが、海藻は早く育ちCO2を吸収し酸素を発生させ地球を支えてくれます。北海道に昔はにしが大量に来ましたが今はほとんど来ない状況でした。そこでまず

昆布を育てる事を考え鉄分を入れて成長を試み、1年後には森になりハタハタの稚魚がいて、あわびやうにが育ち、ついにはニシンが来るようになり、元気が沈んでいた町も元気を取り戻しました。食物連鎖の初めの植物プランクトンを増やすのが大事で、それが見えた事で個人の気持ちが変わり、自然の大切さを感じられる気持ちがスタートとなったので、必要な情報を受け入れられる気持ちとなったことです。

イルカと泳ぐのも自然を大切にできる心が可能にしています。最初は誰でもできないもので、だんだんイルカを理解し海を理解してできるようになります。御蔵島でスクールをしています。私が関わる10数年前は観光客など来る島ではなく、活気も感じられない島でしたが、今ではイルカと泳ぎたいとシーズン前の3月には4月から半年全て宿泊が満員になってしまいます。それもリピーターがほとんどで、イルカとつながれる事で癒され、日本だけでなく世界中から来ます。

今後はどうしていくかということですが、心を侮っていたことに気付き、真剣に取り組んでいない自分だと思いました。自分の意識がどうなっているかは学校でもどこでも教えられない事で、これからはこの点を考える時代です。物は豊かですが心は落ち着かない。どうしたら心が満たされるのか。自分の心を切り抜いてみたいと考えます。心こめて海と向き合い、感謝の心を持って海と付き合いなければ生活できなかったでしょう。潜水士として何十年も海に入っていて気付かなかった。両親から生まれ手塩をかけて育てていただいたのに、自分で大きくなったと思っていた自分。父と母がいなければ自分は存在しないというシンプルで大事な事に気付いたので。両面から見られるようになり、必ず感謝の気持ちが出てきます。気付く前は、海にも感謝の気持ちがなく、ただ金儲けでした。

気付く事で始まり、20数年かけてやっと報恩の気持ちになりました。海に報いるから、海でも生きられる。心をこめて海と付き合うことをテーマにできました。

海と環境が調和する港や防波堤を造りたい。そして人がとても大事という気持ちを持った人を育てたい。これを柱にして、水中塾

というのを20数年続けています。イルカも一つの方法で、海のない群馬でもテレビや本で海を見た時に大事と思う事で気持ちがつながります。「海っていいな」と心で思うだけで充分で、その1人1人の心が大事なのです。

自分の体験を振り返り生き方を見直すのが大事です。成功している人はいいけど、それが成功なのかもわからない。部分部分で自分を見直し、どういう人が考える事が必要です。プラスの心なのか、マイナスの心なのか、自分の気持ちがどちらにいるのか発見する事が大事です。今いるポジションがどこなのか気付く事です。気付かないと自分の方向を選択できない。その判断は自分の責任で行い、違っていても人の責任にする事はできないということに気付く必要があります。人生の中で何度も見直し、失敗を知り苦しみがあったから今の自分がある。失敗を長く引きづらないでどんな状態でも気付く事で癒しにつながります。

今の自分を見る、見られることにより癒されるという、感謝の気持ちや安らぎ、安心、平安な気持ちになれるのです。どんな状態であるかで発想が湧き集中力が高まり全力を注ぐことができます。呼吸法により落ち着いて今を理解したり、瞑想も同じ効果で我を消していく事です。現代ではそれを指導できる方が必要です。

今、癒しの中にいるか、うれしい気持ちでプラスにいるのか、今の自分を見られる事です。海の中で魚の群と泳ぐには人間の意識が高くなないとできません。野生動物と仲間になりたいと思う心になって恐怖心を取り除く事により一体となれるのです。サメとも友達になるのもできます。不可能と思っていた事も意識を変える事で可能になります。

沼田に来て山を見ました。本当にきれいだと思います。その心が大事です。皆様方の心が癒される、自分を見つめ直す気持ちを望んでおります。

渋谷正信プロフィール

1949年、北海道生まれ。プロの潜水士を育成する海洋開発技術学校・深海潜水科卒業。「渋谷にできない仕事はあきらめろ」といわれるほどの潜水工事の第一人者。潜水時間は3万5千時間を超える。本四架橋、羽田空港、東京湾アクアラインなどの多くの水中工事でも活躍。最近は、長年の調査に基づいた海の環境を回復する「海の森づくりプロジェクト」

- (株)渋谷潜水工業 代表取締役
- 一般社団法人日本漁場藻場研究所理事

が日本国内はもとより世界でも注目を浴びている。海に潜るダイビングが心と体の安らぎと調和につながることに着目、自己を探究する内観、心の浄化から人間と自然環境との調和（共生）に目覚め、以来、人間の心身の活性化に、さらには自然環境との共生技術に活用する研究および活動を続けている。

